

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
5 2	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Factor analysis of possible risks for hypertension in a black South African population. 南アフリカ黒人における高血圧症危険因子の因子分析	
<b>執筆者</b>	
Schutte AE, van Rooyen JM, Huisman HW, Kruger HS, de Ridder JH.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
J Hum Hypertens. 2003 May;17(5):339-48.	
<b>キーワード</b>	
黒人 高血圧症 危険因子	
<b>要 旨</b>	
<p>南アフリカ黒人における潜在的な危険要因のパターンを明らかにするための因子分析を行うことにより、高血圧の主要な危険要因の相互関係を明らかにすることを目的とし本研究を行った。1996-1998年に北西部から無作為抽出された37施設から募集した16-70歳の963名を本調査の対象とした。妊娠中、一時的な受診者、酩酊状態のもの、既に治療中の高血圧などの慢性疾患に罹患しているものを除外した。収縮期血圧140mmHg以上、拡張期血圧90mmHg以上を高血圧とした。また、2000-2001年には無作為抽出された30学校から10-15歳の694名の児童を対象として調査が行われた。児童における高血圧は、性年齢を考慮し身長を調整した収縮期血圧あるいは拡張期血圧が90パーセントイル以上と定義された。都市化、肥満、血漿フィブリノーゲン、脂質、インスリン、<math>\gamma</math>GTP、食事摂取、飲酒、喫煙などの要因が評価された。23の危険要因による因子分析の結果抽出された5因子(①都市化に伴う栄養不良現象、②メタボリック症候群③高脂血症と肥満の複合、④飲酒に伴う中性脂肪の増加、⑤中心および末梢血管に対する高血圧の影響)により男性では変動の56.2%、女性では変動の43.5%が説明された。地方から都市部に移動してきた南アフリカ人は多くの危険因子に曝露する可能性がある新たな生活習慣に適応しなければならない。そしてそうした生活習慣は、栄養不良やメタボリック症候群、脂質代謝異常、アルコール依存症、肥満、末梢血管抵抗の増大などの状態をもたらす。このような過渡期における高血圧予防のためには、生活習慣改善計画を実施により、個々人の危険要因よりもむしろ包括的な危険パターンを正すべきである。</p>	